財務省近畿財務局
神戸財務事務所
Kinki Regional Finance Bureau Ministry of Finance

令和8年11月5日

兵庫県内経済情勢報告

（令和8年10月判断）

1．総論

【総括判断】「緩やかに持ち直しつつある」

項　目	前回（8年7月判断）	今回（8年10月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直しつつある	**緩やかに持ち直しつつある**	⇨

（注）8年10月判断は、前回8年7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、緩やかに持ち直しつつある。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある。以上のことから、県内経済は、緩やかに持ち直しつつある。

【各項目の判断】

項　目	前回（8年7月判断）	今回（8年10月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに持ち直しつつある	**緩やかに持ち直しつつある**	⇨
生産活動	持ち直しつつある	**持ち直しつつある**	⇨
雇用情勢	テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある	**テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある**	⇨
設備投資	8年度通期は前年度を上回る見込みとなっている	**8年度通期は前年度を上回る見込みとなっている**	⇨
企業収益	8年度通期は減益見込みとなっている	**8年度通期は減益見込みとなっている**	⇨

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかに持ち直していくことが期待されるものの、中東情勢や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

２．各論

【主な項目】

■ 個人消費「緩やかに持ち直しつつある」

百貨店販売額は、高額商品の売上が好調に推移していることなどから、前年を上回っている。
スーパー販売額は、節約志向の高まりによる購入点数の減少などから、前年を下回っている。
ショッピングセンター販売額は、物価上昇に伴う客単価の上昇などから、前年を上回っている。
コンビニエンスストア販売額は、猛暑や降雨の影響により来店客数が減少したことなどから、前年を下回っている。
ドラッグストア販売額は、猛暑の影響により季節性商品が好調であったことなどから、前年を上回っている。
ホームセンター販売額は、天候不順による季節性商品の低迷や石油関連商品の駆け込み需要の反動減などから、前年を下回っている。
家電大型専門店販売額は、エアコンの買替え需要などから、前年を上回っている。
乗用車の新車登録届出台数は、小型車が好調であったことなどから、前年を上回っている。
宿泊施設稼働率は、夏季の旅行需要やインバウンド需要の増加などから、前年を上回っている。
これらのことから、個人消費は、緩やかに持ち直しつつある。

（主なヒアリング結果）

- ラグジュアリーや宝飾品等の高額商品の売上が好調である。また高額商品については、価格改定後も販売は好調で、富裕層やインバウンドを中心とした旺盛な需要が継続している。（**百貨店**）
- 猛暑や降雨の影響もあり来店客数が減少していることに加え、消費者の節約志向から購入点数も少なくなっており、売上は減少傾向にある。また、メーカーの値上げが相次ぎ仕入価格に大きく影響しており、価格転嫁を進めているものの、コスト上昇分を十分に反映できていない状況にある。（**スーパー**）
- 客数は概ね横ばいだが、物価上昇を背景とした客単価上昇が売上増加に寄与している。また、食料品や日用品、衣料品については節約志向がみられる一方で、美容関連や趣味関連などには支出を惜しまないというようなメリハリ消費の傾向がみられる。（**ショッピングセンター**）
- 7～8 月は猛暑の影響から外出を控える動きがみられたほか、9 月は降雨の影響により来店客数が減少した。（**コンビニエンスストア**）
- 物価高を背景に消費者の節約志向がみられるものの、猛暑の影響から飲料、熱中症対策商品、制汗剤、日焼け止め等の季節性商品が好調であった。（**ドラッグストア**）
- 6 月は天候不順の影響から、殺虫剤やエアコン関連等、季節性商品の販売が伸び悩む場面がみられたほか、中東情勢を受けて前期に需要の高まっていたごみ袋や手袋、ラップ等のビニール製商品では反動減がみられた。一方、昨今の地震や豪雨等の自然災害を受けた防災意識の高まりからポータブル発電機等の関連商品が好調であった。（**ホームセンター**）
- 2027 年度の省エネ基準厳格化を見据えたエアコン買替え需要のほか、大型テレビやスマートフォン等、高単価商品の販売増により客単価が上昇し、売上は好調に推移した。（**家電量販店**）
- 販売に関しては SUV を中心に小型車が好調であったほか、車種に関わらず全体的に堅調に推移しており、消費者マインドは悪くない状況と感じている。（**自動車販売店**）
- 夏季は旅行シーズンに伴う家族利用の増加に加え、台風による宿泊・宴席キャンセルが少なかったことから好調であった。神戸空港で中国便の運休が生じているものの、従来から台湾、香港、韓国及び東南アジアからの宿泊客が多いことから影響は限定的であり、韓国便や台湾便の増便を背景に、両地域からの宿泊客が増加している。（**宿泊**）

■ 生産活動「持ち直しつつある」

鉱工業指数（生産）は、「汎用機械」や「化学」等が低下しているものの、「輸送機械」や「生産用機械」等が上昇している。また、企業からは、一部で中東情勢の影響を受けているとの声があるものの、半導体・AI・データセンター向けが引き続き堅調に推移しているといった声が聞かれている。

これらのことから、生産活動は、持ち直しつつある。

（主なヒアリング結果）

- ➢ 欧州のEV市場が回復傾向にあることから、ガソリン車向け部品の需要が減少している。（**汎用機械**）
- ➢ 中東情勢の影響により、原材料価格は、ピークアウトしているものの年初予想より上昇している。調達自体はできており、仕入れコスト上昇分を概ね販売価格に転嫁できている。（**化学**）
- ➢ 二輪自動車事業は年度末需要の反動減がみられるものの、中長期的には右肩上がりで推移している。また中東情勢による航空機関連事業への影響が懸念されたものの、現時点で大きな影響は確認されていない。（**輸送機械**）
- ➢ 半導体製造装置向けロボットの需要が引き続き旺盛であり、生産能力を半導体向けへシフトする動きが継続している。（**生産用機械**）
- ➢ 自動車向けを中心に需要は横ばいで推移している。原油価格上昇に伴い輸送コスト等が増加していることから、コスト上昇分を順次販売価格へ転嫁している。（**鉄鋼**）
- ➢ 航空機、データセンター及び半導体製造装置向け等において、引き続き堅調に推移している。（**非鉄金属**）
- ➢ 生成AIやデータセンターに使われる半導体製品の需要が引き続き旺盛である。また生成AIの普及に伴いデータセンターの消費電力推移が増加していることから、ガスタービンによる発電需要が高水準で推移している。（**金属**）
- ➢ 電力プラント向けは、AI需要の拡大に伴う電力需要を背景に設備投資案件が継続しており、受注は堅調に推移している。（**金属**）
- ➢ 生成AI等で使用されるメモリー半導体向けの需要について、引き続き堅調に推移している。（**電気機械**）
- ➢ 価格改定により一部で販売数量の減少がみられるものの、売上は横ばいで推移している。また中東情勢の影響で、包装資材価格等が上昇している。（**食料品**）
- ➢ 中東情勢の影響により、当初はコーキング材、シンナー等の建設関連資材の調達難により工事計画に支障が生じるケースもみられたが、現在は解消されていると聞いている。（**経済団体**）
- ➢ 中小企業を含む多くの企業で価格転嫁が進展しているものの、人件費や輸送コスト等の上昇分までは十分に転嫁できていないとの声が聞かれている。（**経済団体**）
- ➢ AI・半導体関連企業からは受注好調との声が聞かれるが、市場環境の変動が大きい分野のため、好況にも関わらず設備投資へ慎重な企業が多い。一方で、データセンター関連企業については、需要拡大を背景に設備投資を進める動きがみられている。（**金融機関**）
- ➢ 一部において、足下では半導体の調達が難しくなっているとの声が聞かれている。世界的なAI需要の高まりが影響している可能性があり、今後の生産への影響を懸念している。（**金融機関**）

■ 雇用情勢「テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある」

令和8年8月の有効求人倍率は、受理地別では0.92倍、就業地別では1.05倍で推移している。

また、法人企業景気予測調査の従業員数判断BSIについて、全産業の現状判断は、令和8年7～9月期調査では35.8%ポイントと引き続き「不足気味」超となっている。

これらのことから、雇用情勢は、テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある。

（主なヒアリング結果）

- ➢ 多くの業種で人手不足が継続している一方で、物価高や人件費上昇、省人化投資の進展等を背景として、採用計画の見直しや求人抑制の動きも一部でみられている。（**公的機関**）
- ➢ 大卒・高卒ともに採用計画は未達となっており、特に高卒採用で人材確保に苦戦している。店舗における一時的な人員不足については、スポットワークを活用しながら対応している。（**ドラッグストア**）
- ➢ 大卒は計画通りの内定数を確保できたものの、高卒採用は計画未達となっている。二次募集でも必要人数を確保できない場合は、契約社員や派遣社員の活用により対応する予定である。（**金属**）
- ➢ 正規職員は概ね充足しているものの、職員の高齢化が進展しており、将来を見据えた若手人材の確保が課題となっている。（**スーパー**）
- ➢ テナント店舗では、人手不足というよりも少人数で効率的に店舗運営を行うという意識が浸透しており、現場の繁忙感が強い印象である。（**ショッピングセンター**）
- ➢ 初任給の引上げや各種休暇制度の拡充、メンター制度の導入等の処遇改善を進めたこともあり、離職者は減少傾向にある。（**宿泊**）
- ➢ 地方拠点における人材確保難は継続している一方、成果報酬型エージェントの活用により、中途採用では採用成果がみられている。（**金属**）
- ➢ AIの活用を進めており、足下では主に企画やマーケット調査を中心に活用している。（**汎用機械**）
- ➢ 大手企業との賃金水準の差から、中小企業では人材確保が厳しい状況が続いており、賃上げを実施せざるを得ない状況となっている。（**経済団体**）
- ➢ 外国人向けの採用説明会が活況であるが、在留資格に伴う業務内容の制約等から、マッチングで苦労している面もあると聞いている。（**経済団体**）

■ 設備投資「8年度通期は前年度を上回る見込みとなっている」

法人企業景気予測調査（令和8年7～9月期調査）でみると、8年度通期の設備投資は、全産業では「前年度を上回る見込み」となっている。製造業では、「食料品」等が前年度を下回っているものの、「鉄鋼」、「輸送用機械」等が前年度を上回っていることから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。非製造業では、「運輸・郵便」等が前年度を下回っているものの、「電気・ガス・水道」、「情報通信」等が前年度を上回っていることから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

■ 企業収益「8年度通期は減益見込みとなっている」

法人企業景気予測調査（令和8年7～9月期調査）でみると、8年度通期の経常利益は、全産業では「減益見込み」となっている。製造業では、「鉄鋼」等が増益となるものの、「情報通信機械」、「化学」等が減益見込みとなっていることから、全体では減益見込みとなっている。非製造業では、「小売」等が増益となるものの、「運輸・郵便」、「建設」等が減益見込みとなっていることから、全体では減益見込みとなっている。

【その他の項目】

■ 住宅建設　新設住宅着工戸数（令和8年8月、後方3ヶ月移動平均）でみると、前年を上回っている。

■ 公共事業　前払金保証請負金額（令和8年9月、年度累計）でみると、前年を上回っている。

■ 輸出入　神戸港の通関実績（円ベース、令和8年7～9月、3ヶ月平均）でみると、輸出は、非鉄金属、原動機等が増加していることから、前年を上回っている。
なお、輸入は、前年を上回っている。

■ 企業倒産　企業倒産件数（令和8年7～9月、3ヶ月平均）は、前年を上回っている。

■ 企業の景況感　法人企業景気予測調査（令和8年7～9月期調査）の景況判断BSIでみると、現状判断は「下降」超となっている。
先行きについては、全産業でみると、令和8年10～12月期、令和9年1～3月期いずれも「下降」超で推移する見通しとなっている。

【問い合わせ先】
神戸財務事務所　財務課
℡：078-391-6942